

「第2期広島県医療費適正化計画」の進捗状況について

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	見解	備考
(1)住民の健康の保持の推進										
①特定健康診査・特定保健指導の実施率(%) (上段:特定健康診査, 下段:特定保健指導)	37.3	38.2	40.9	41.4	42.9	—	—	65以上	・普及啓発等の取組を通じ、増加傾向にあるものの、目標達成には更なる取組の充実が必要。	数値は国から提供「平成26年度特定健診・保健指導実施状況分布」
	17.1	19.4	18.6	21.5	21.6	—	—	45以上		
②メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率(%)	▲4.4 (26.4)	▲10.3 (27.7)	▲7.3 (26.8)	▲6.0 (26.6)	▲5.6 (26.5)	—	—	25以上 (18)	・メタボリックシンドロームの該当者及び予備群は、近年減少傾向にあるものの、平成20年度と比べると増加。 ・このため、特定健康診査・特定保健指導の取組を充実し、対象者を早期に発見し、生活習慣を改善させることが必要。	・数値は国から提供「都道府県別メタボリックシンドローム該当者割合等」 ・減少率は平成20年度比(▲は増加率を表す) ・()内はメタボリックシンドローム該当者及び予備群者割合
③たばこ対策(喫煙率)(%)	—	男性26.9 女性 5.5	—	男性24.1 女性 5.1	—	—	—	—	・減少傾向にあるものの、働き世代の喫煙率が高いため、職場での受動喫煙や禁煙への取組が必要。	・「健康ひろしま21(第2次)」に掲げる数値目標は、平成29年度:男性22以下、女性5以下 ・出典:「広島県県民健康・栄養調査結果報告書」
(2)医療の効率的な提供の推進										
①平均在院日数(日)	35.7	35.2	34.3	33.7	32.8	31.9	—	—	・平均在院日数は短縮傾向にあるものの、県内の病床数は、高度急性期が多く、回復期病床が少ないなど、病床機能に偏りがある。 ・今後は、広島県地域医療構想に基づき、バランスのとれた医療機能の分化と連携を推進することが必要。	・国に掲げる数値目標は平成29年:28.6日 ・出典:「病院報告」(厚生労働省)
②後発医薬品使用率(%)	21.7	22.7	27.7	49.7 (32.0)	56.4 (36.6)	61.2 (40.7)	—	—	・差額通知の送付や希望カードの配布などによる市町保険者の取組により、使用割合は順調に上昇している。	・各年度3月分の数値 ・国に掲げる数値目標は、平成29年度:70% ・平成22～24年度及び平成25～27年度の()内は旧指標 ・出典:「最近の調剤医療費の動向(厚生労働省)」
(3)医療に要する費用の見通し										
医療費(億円)	—	9,700	9,803	9,933	10,102	—	—	適正化前:11,530 適正化後:11,371	・高齢化の進展などにより、今後も医療費が増加することが見込まれる。	・平成23、26年度、出典「国民医療費」(厚生労働省) ・平成24、25年度分は国から提供(推計値)

注1)平成29年度は、適正化計画に掲げる目標値を記載。なお、メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率は成果指標、医療費については推計値を記載。

注2)メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少率は、性・年齢階級別に該当者数の割合を算出し、階級毎の人口を乗じて該当者数を算出。

注3)平均在院日数の出典は病院報告であるが、年度単位ではなく年単位の統計のため、表中「平成〇年度」を「平成〇年」と読み替えて記載。

注4)平成23、26年度の医療費は都道府県別国民医療費を記載。平成24年度及び平成25年度分の医療費は、国においてそれぞれの年度の国民医療費の数値を、制度ごとに積み上げた都道府県別の数値で按算出したもの。

注5)後発医薬品の使用率の定義は、旧指標:「後発医薬品」/「全医薬品」、新指標:「後発医薬品」/「後発医薬品のある先発医薬品」+「後発医薬品」

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	見解	備考
(4)独自に設定している目標											
がん検診受診率(%)	胃がん	32.6	—	—	40.5	—	—	—	50以上	<p>・広島県がん検診啓発特使(デーモン閣下)を活用したイベント・キャンペーンにより、がん検診の認知度は向上している。</p> <p>・引き続き、目標達成に向けた取組の充実が必要。</p>	<p>対象:40歳(子宮がん20歳)~69歳 出典:国民生活基礎調査(厚生労働省) (調査は3年に1回)</p>
	肺がん	23.3	—	—	41.3	—	—	—			
	大腸がん	23.3	—	—	37.2	—	—	—			
	子宮がん	40.0	—	—	43.9	—	—	—			
	乳がん	36.9	—	—	43.0	—	—	—			
市町が実施するがん検診受診者数(人)	胃がん	44,747	46,005	46,064	43,291	45,984	45,297	—	6割増 (71,595)		<p>対象:40歳(子宮がん20歳)~69歳 出典:地域保健・健康増進事業報告 (厚生労働省) ※平成27年度の受診者数は速報値</p>
	肺がん	63,701	66,767	70,538	69,556	76,127	80,968	—	10割増 (127,402)		
	大腸がん	61,821	79,572	84,400	84,001	89,312	96,761	—	10割増 (123,642)		
	子宮がん	148,707	150,156	150,134	155,007	156,304	154,969	—	3割増 (193,319)		
	乳がん	93,333	91,347	91,710	90,834	89,555	93,867	—	4割増 (130,666)		